

「愛」ある情報基盤整備

～新しい行政情報サービスの提供に向けて～

災害への万全の備えに、 音声放送端末機を市内全戸の設置へ

このたび市では、それぞれのご家庭に緊急情報をいち早くお伝えするため「音声放送端末機」を市内全戸に設置させていただきます。

今回は音声放送端末機の設置工事と設置までの流れについてご説明いたします。

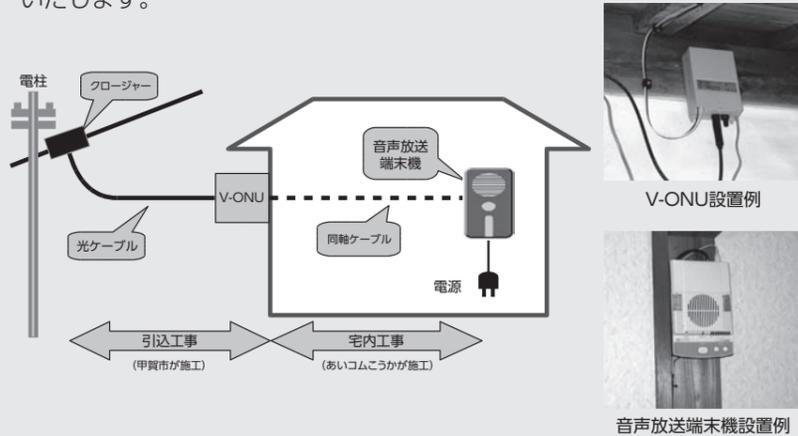
●設置工事について

①引込工事(市が施工)

近くの電柱からご自宅の軒下にV-ONU(光ファイバーからの光信号を電気信号へ変換する機器)を設置し、光ケーブルを引き込みます。

②宅内工事(㈱あいコムこうかが施工)

V-ONUから宅内に設置する音声放送端末機まで同軸ケーブルを配線いたします。



●設置までの流れについて

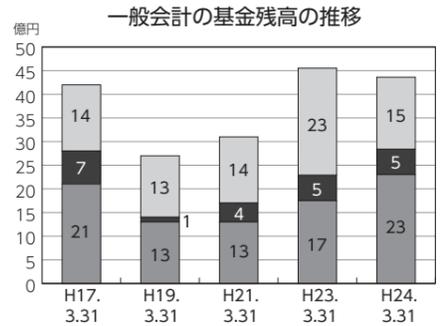
- ①区・自治会(町内会)単位で、事業の趣旨、音声放送端末機の全戸設置、市独自のサービス等について説明会を実施させていただきます。
- ②「設置及び工事の承諾書」と音声放送端末機設置の説明書等を各ご家庭に送付いたします。
市民の皆様には内容をご確認のうえ、「設置及び工事の承諾書」又は「設置しない理由書」のご返送をお願いします。
- ③「設置及び工事の承諾書」によりご承諾をいただいたご家庭には、「㈱あいコムこうか」が伺い、引込工事及び宅内工事の事前調査をいたします。
- ④V-ONUの設置場所が決定した後に、市が発注した施工業者が引込工事を行います。
- ⑤その後、引き続き「㈱あいコムこうか」が宅内工事を行います。

※アパート・マンション等の集合住宅につきましては、建物所有者様、あるいは管理会社様の承諾を得た後に、工事を実施させていただくことになります。

基金の残高

市の預金です。各年度の財源を調整するための財政調整基金や、将来の大きな支出に備えて積み立てている特定目的基金などがあります。

特定目的基金は、22年度に国や県の交付金を公共施設等整備基金などに一時的に積み立て、23年度に執行した交付金事業の財源として活用したため減少しました。

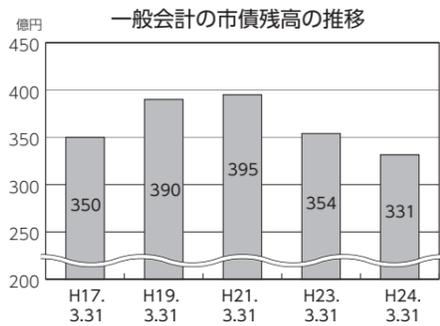


※基金残高は、「住みよさと活気あふれるまちづくり基金」(24年3月31日現在の残高38億5,622万円)を除いています。この基金は、合併した後のまちづくりを進めるため合併特例債という特別な借金をして積立をしています。

市債の残高

市の借金です。道路や学校などの公共施設を作るときに財源の一部にします。

近年では、学校の耐震化を進めるための財源などに活用していますが、将来世代に負担を先送りしないように、期限よりも早くお金を返す「繰上償還」をしたり、返す以上に借らないこと(プライマリーバランスの黒字化)を守ったため残高は減ってきています。



※これらの数値は、各年度の3月31日現在の数値であり、決算額とは異なります。

問い合わせ
財政課 財政係
☎65-0676 ☎63-4561

一般会計の収入・支出

市の基本となる会計です。

歳入予算総額 369億7,572万円
収入総額 311億4,236万円
(執行率84.2%)

歳出予算総額 369億7,572万円
支出総額 306億7,050万円
(執行率82.9%)

※「1人あたり」「1世帯あたり」の金額は、平成24年3月31日現在の人口:94,224人世帯数:32,966世帯をもとに計算しています。

市税の負担額

税収総額 132億 680万円

市税(法人市民税などを除く)の負担額

市民1人あたり 123,231円
1世帯あたり 352,220円

市民1人あたりに使ったお金

325,505円

総務費	民生費
自治振興や交通、企画・立案など 49,049円	高齢者や子ども、障がい者の福祉に 99,343円
衛生費	農林水産業費
健康で衛生的な生活環境の推進に 35,749円	農業や林業の振興に 16,633円
土木費	教育費
道路や公園などの公共施設の整備に 20,594円	学校教育の充実、文化・スポーツの振興に 32,348円
公債費	その他
市が借りたお金の返済に 47,481円	消防、商業の振興、議会の運営経費など 24,308円

近年は福祉施策の充実や子ども手当の支給などにより民生費の支出が増えています。

この執行状況は平成24年3月31日現在のものです。
平成23年度の最終の決算額は、出納整理期間(翌年度の4月1日～5月31日)の執行を含めたものになります。決算の内容は、11月1日でお知らせする予定です。

市の財政の状況を知っていただくため、地方自治法第243条の3第1項の規定に基づき、平成23年4月1日から平成24年3月31日までの収入・支出、基金、市債の現況をお知らせします。

平成23年度 市の財政状況

行政は、市民皆様の暮らしを守り、誰もが住んでよかったと実感できる元気なまちをつくるべく役割を担っています。限られた財源を適切に配分し、効果的な事業を行っていくことが求められますが、無理な財政運営は避けなければなりません。収入に合わせて計画的に施策を進めていくことが大切ですが、急激な経済の後退など、不安定な要素もあります。

当市では、行政経営という考え方を基本に、職員の定数見直しや給与等の独自力アップなどの行財政改革で経費を抑え、借金(市債)も返済以上に借りないことを原則としています。こうした取り組みは、財政基盤を強化させるだけでなく、将来に負担を先送りさせないという大きな目的があつてのことです。

今回、お知らせします財政状況でも、大切な貯金(基金残高)が増え、借金(市債残高)が減っているということがお分かりいただけます。今後も、これまでの方針のもとに、強い財政基盤の上に、発展し続ける甲賀市を築いていくよう努力してまいります。